



## 新入会員卓話

「自己紹介」

真砂敦夫



「インドネシア『多様性の中の統一』」

横田茂樹



### インドネシアの多様性

第二次世界大戦後のオランダとの独立戦争の結果、それまでオランダの植民地であった各地の多種多様な民族が結果としてひとつの国家になったのがインドネシアで、多様な宗教、言語を内包する「多様性」を宿命として抱えている。(最大民族集団であるジャワ人のジャワ語を国語にしなかった。)

### インドネシアの宗教

国章のガルダは、ヒンドゥー教のヴィシュヌ神を背に乗せて飛ぶ神の鳥(伝説上の鳥)。そのガルダが胸に掲げているのが、「建国五原則」で、そのうちの一つである「唯一神への信仰」は、「アッラーではなく、インドネシア語の Tuhan(神)」があげられている。インドネシアでは、国民の88%がイスラムを信仰している(ムスリム)と言われているが、イスラムを国教にはしていない。

### インドネシアの対日感情

200年以上に亘って、オランダの支配下にあったインドネシア(オランダの統治が及んでいた地域)は、第二次世界大戦後、オランダ軍との独立戦争に勝利し、ついに独立を勝ち取った。この独立戦争において、軍籍を離脱した一部の日本人(数千人とも2千人とも言われている。)が銃を持ってインドネシア人と一緒に最前列に立ちオランダ軍と戦い命を落とした。英雄として、カリバタ英雄基地に眠っている日本人もいる。インドネシアの対日感情

が東南アジアの中で比較的良好と言われるルーツはここにある。

### 政権交代の歴史

インドネシアの初代大統領であったスカルノは、インドネシア共産党と国軍を拮抗させ、その均衡点に立つことで政治の主導権を取ろうとしたが、西側諸国との関係悪化のため、経済援助を打ち切られ国際経済が疲弊、この混乱の中、1965年、共産党に近い国軍左派によるクーデター(所謂9.30事件)が発生したが、これを鎮圧したのがスハルトが指揮した陸軍で、これによりスカルノが失脚し、スハルトが第二代大統領に就任し、西側諸国との関係改善を図った。スハルトは30年以上に亘って開発独裁体制を維持したが、1997年のアジア通貨経済危機により、インドネシア通貨ルピアが大暴落し急激な物価上昇に全土が騒乱状態となり、これに対応できなかった政権に対する非難の高まりに耐えられなくなったスハルトは辞任を余儀なくされた。また、スハルトファミリービジネスも同時に崩壊した。その後、短期間に大統領が次々に代わる混乱が続いたが、2004年、国民による第1回の大統領選挙でスシロ・バンバン・ユドヨノが当選し、徹底的に地方分権と民主化を進め、政治の安定化を図った。ユドヨノ政権下で、インドネシアは経済発展を遂げたが、2014年2期10年を終えるため、7月に大統領選の投票が実施される。後継者が誰になるか注目される。

「会社紹介」

安藤正道



●東海東京フィナンシャル・ホールディングス株式会社について

●2014年3月の株式市況見通し

～ウクライナ不安は残るものの、日本株には割安感が強まる～

●中部地区限定フォーラムのご案内

「2014年度診療報酬改定のポイントと今後の医療・介護事業経営」

・2014年4月12日(土) 14時～

・ミッドランドホールにて

・基調講演 松永夏来氏

「2014年度診療報酬改定のポイント」

・講演 藤村 隆氏

「ヘルスケアリート・ファンドを活用した医療・介護の新事業戦略」